

噴火湾横断周遊ルートプロジェクトについて

ー「観光」と「移動」を兼ね備えた新時代を「開拓」するー

北海道新幹線が本年3月に開業しました。平成42年度には札幌に至る北回りルートの開業が予定されており、これにより「本州～函館～ニセコ～小樽～札幌」を軸とした観光振興に向けた期待が高まる一方で、新幹線が運行しない南回りルートについては、観光客離れが進むことが懸念されているほか、新幹線と在来線の乗換回数の増加や特急の減便など交通サービス水準が大幅に低下することも危惧されます。

そこで、新幹線沿線ではない胆振・日高（日胆：にったん）エリアへも開業効果呼び込むことを目的として、平成25年10月に北海道新幹線×nittan地域戦略会議を立ち上げ、観光振興を軸とした様々な事業に取り組みしてきました。日胆エリアは、西端の豊浦町から東端のえりも町まで、太平洋沿いに約250km続く広大なエリアです。新函館北斗駅からの長い移動時間が課題となっていますが、この課題の解決策を検討するため、移動と観光を融合させた新たな交通手段として、森港から室蘭港への噴火湾横断クルーズ実証実験を平成27年夏に初めて実施しました。

この航路は、「森蘭航路」と呼ばれ、明治初期に開拓史の手により建設された札幌から函館を結ぶ「札幌本道」の海上路として、明治5年から昭和3年まで旅客や貨物の運搬において活躍しました。「札幌本道」は、土木学会の選奨土木遺産にも登録されており、今回の取り組みは、歴史ロマンを今に伝える「森蘭航路」の再現となる点も注目されていました。

さらに、噴火湾は、イルカ・ホエールウォッチングを楽しむことができる海域でもあることから、今回のクルーザー運航は、単に移動時間の短縮という目的だけではなく、「歴史ある街道ルートの再現」と「イ



ルカ・ホエールウォッチングを楽しめる」という高付加価値な観光資源を掘り起こし、新たな魅力としてPRしたいという狙いもありました。

本年3月には、1回目よりも大型の高速船を使用し、再度実証実験を実施。国内外の旅行代理店やメディア関係者約80名に乗船いただき、森港から室蘭港間の約40キロを1時間10分で横断しました。また、室蘭市到着後は、市内のホテルで「森蘭航路の可能性とnittan未来予想図」と題した広域観光セミナーを開催。乗船者80名を含む110名にご参加いただき、国の観光立国推進有識者会議の委員である石井至氏にお越しいただき、nittanエリアが持つ観光分野のポテンシャルについてご講演いただいたほか、森蘭航路の歴史の説明などを行い、今後のnittanエリアにおける広域観光のあり方と噴火湾横断クルーズの商品化の可能性を探りました。



【写真：本年3月17日に実施した実証実験の際の船上からの眺め】

2回の実証実験の結果を踏まえ、平成28年度は噴火湾横断クルーズの商品化を後押しするため、森蘭航路を行程に組み込んだツアー商品を造成する旅行代理店に対し、船のチャーター料の一部を助成する試みを実施。その効果もあり、5月から東京のクラブツーリズムから旅行商品の一部に組み込まれ販売されています。

噴火湾横断クルーズは、北海道新幹線開業に沸く道南と道央をつなぐキーコンテンツになりうると考えておりますので、地元自治体や住民、観光・港湾関係者など、様々な関係主体と連携を密に取りながら、引き続き北海道新幹線効果の拡大に取り組んでまいります。

（北海道新幹線×nittan地域戦略会議事務局 吉田 帆南美）